

哲學研究

第三十卷 第一册

第二六二號

昭和三十一年一月一日發行



デカルトに於ける延長

.....
文學士 三宅 剛一

主體の哲學と倫理の問題 (上)

.....
文學士 柳田謙十郎

相對性理論をめぐる認識論的諸問題 (承前)

.....
文學士 近藤洋逸

京都哲學會 寄贈書

京都帝國大學文學部

京都哲學會

前 號 目 次

種の論理の意味を明にす (承前) …………… 文學博士 田 邊 元

アリストテレスに於ける認識論的思想の發展 (承前) …… 商學士 藤 井 義 夫

「アリストテレスの認識論」研究への一寄與

相對性理論をめぐる認識論的諸問題 (承前) …………… 文學士 近 藤 洋 逸

告 會

- 一、本會へ入會希望者へ京都市西洞院七條南内外出版印刷株式會社内京都哲學會宛テニ規定ノ會費(前表紙裏ニアリ)御納付ノ上御申込被下度候
- 一、會員ニシテ轉居入退會等(編輯事務以外ノ一切)ノ事務ハ内外出版印刷株式會社内京都哲學會へ御通知被下度候
- 一、會費ハ振替口座大阪三〇六六三番 内外出版印刷株式會社内京都哲學會宛テニ御拂込被下度候
- 一、前金切レノ場合ハ帶封ニ(前金切)ノ印章押捺致スベキニ付直ニ御拂込下サレ度候
- 一、本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介・新刊書寄贈雜誌等ハ凡テ本會宛テニ御發送被下度候

京都帝國大學
文學部内
京都哲學會

定 規 文 註

- ◆ 會員にあらざる購讀者の御註文及び廣告に關する件は内外出版印刷株式會社へ御申込下され度候
- ◆ 本誌の御註文はすべて代金郵税共前金にて御送り下され度候
- ◆ 振替貯金にて御送金の際は(振替京都三九三一番大阪三九三一番東京三九三一番) 内外出版印刷株式會社宛に願上候
- ◆ 特に請求書及領收書等必要する場合ハ郵券差錢御送付下され度候

價 定

冊	數	定	價	郵	稅
一冊	冊	金四拾五錢	金壹錢五厘		
六冊	冊(前金)	金貳圓七拾錢	不申		
十二冊	冊(前金)	金五圓四拾錢	不申		

廣告料

一頁 金參拾圓 半頁ハ取扱不申

昭和十二年三月廿五日印刷納本
昭和十三年一月一日發行
行 第二百六十二號 第二十三卷

不複許製
禁轉載

編輯者 京都帝國大學文學部内
右代表者 京都哲學會
發行者 須磨英次郎
印刷者 須磨勤兵衛
印刷所 須磨勤兵衛
内外出版印刷株式會社
京都市北小路通新町四入
京都市西洞院通七條南入

發行所

京都市下京區西洞院七條南
内外出版印刷株式會社

振替口座 京都三九三一番
大阪三九三一番
東京三九三一番

本社 京都市下京區西洞院通七條南入
内外出版印刷株式會社

賣捌所 (東京) 寶隆文館 東海堂
(大阪) 寶隆文館 東海堂
(神戸) 寶隆文館 東海堂
(京都) 寶隆文館 東海堂
大寶文社 川瀨書店 參文社

小林太市郎著

支那と佛蘭西美術工藝

菊版 クロス装 上製
總頁 六二七頁
コロタイプ挿繪 六三葉
定價七・〇〇 送料・二二

版 定 限

第十八世紀の歐洲諸國、特に佛蘭西の文學美術中に、支那を取扱つてゐるものは屢々見る所であり、支那に關する當時の記述や、又美術工藝の類を萃めた如き著書の類も既に數種残つてゐるが、進んで極東支那、日本の思想乃至美術工藝が、第十八世紀の歐洲に於ける所謂啓蒙文明の物心兩方面に、如何なる影響を與へたかと言ふ點の考察になると、それは大體としては未だ曖昧の儘に取殘されてゐると言ふ外はない。併しながら、第十八世紀以來の東西文化の交渉は、一方西から東への方向と共に、他方東から西への方向に就いての影響を究明することに由つて、始めて完璧を期す可きである。特に從來閑却せられ勝であつた後者の事實を一層精細に分析すると共に、其の影響を闡明することは、吾々に課せられたる研究であると思ふ。而して小林君の本著は、少くとも此の問題に向つて、新しく一步を進めたものと謂ふ可きである。(濱田耕作博士の序より)

〔内容大略〕第一章序論 十八世紀の佛蘭西に於ける支那觀と思想界に對する支那の影響 第二章 歐羅巴特に佛蘭西に於ける支那工藝品の輸入 第三章 佛蘭西に於ける支那品及び其の模造品と支那裝飾と支那趣味との流行 第四章 工藝及び造園に對する支那の影響 第五章 室内裝飾に對する支那の影響と支那趣味の室内裝飾畫 第六章 概要並に結論、「ロココ」美術の形成に於ける支那の影響の問題

藝術史の課題

植田壽藏著

定價 二・〇〇
送料 三三

(大正五年四月六日)昭和十二年十二月廿五日印刷納本(毎月一回)
(第三種郵便物認可)昭和十三年一月一日發行(一日發行)

哲學研究 第二百六十二號 定價金四拾五錢

郵税金壹錢

九〇九三五東京振・臺河駿田神京東
五二三一都京振・町浦西中田都京

弘文堂

